

2020年7月16日(木) 日刊工業新聞掲載

日刊工業新聞

第3種郵便物認可

モノづくり

MONODZUKURI

水

働き方

木

製造

金

販売 サービス

て味は違
連のノウ
も提供す
工業は出
に乗り会
化と動き
をしてい
(健一郎)

数値管理で品質安定・職場改善



いよ本番!
プリンター
活用

41

器を保有する意義は何か。
県内の産業構造との親和性
はどこか。3Dものづくり

石川県工業試験場
3Dものづくり推進
プロジェクト室長

舟田 義則氏

がメインで、性能評価や構
造解析や治具の製作に用い
ている。石川は伝統工芸

は曜日替わりです

日本シーム(埼玉県川口市、木口達也社長、048・298・7700)は、廃プラスチックのリサイクル(再生利用)装置の製造・販売を手がける。粉砕や選別など各工程の機械を提供してリサイクル材料の品質を高めて用途を拡大、マテリアルリサイクル率の向上につなげる。海洋に漂うプラスチックゴミの問題が深刻化する中、「機械の力で廃プラの再生力を高める」と語る木口社長に今後の展開などを聞いた。



日本シーム社長 木口 達也氏

挑む

モノづくり ヒトづくり

機械の力で廃プラ再生力高める

4月に製品テスト環境を備えたシールのテストが可能だ。新装置の開発にも役立つ。「本社敷地を拡張して、顧客の課題解決に選別機など機種が増えたため、製品展示のほか、専用のテスト環境が必要と判断した。小型機を中心に展示するほか、中・大型機のラボを設置して顧客の要

望に応じた生産ラインのテストが可能だ。新装置の開発にも役立つ。「ベルトコンベヤーにペットボトルを投入して、粉砕して洗浄、比重選別というようにま



「すべてマテリアルリサイクルでできればよいが、現状は2割程度しか再利用されてはいない。残りも焼却な

混合プラの選別精度 99%に

6割焼却 どこまで改善

「売り上げにとらわれず、世の中にないものをつくる」と木口社長。最近では金属付きプラを粉砕したり、充填剤入りプラの歩留まりを高めたりする機械を相次ぎ開発した。顧客の運用コストを抑え、純度の高いリサイクル材料を生み出せるかが重要。日本で生じる廃プラは年900万トだが、約6割は焼却されているという。廃プラの再生利用を進めるための技術や機械の開発で、どこまで比率を改善することができるか注目したい。

ポイント

機械の力で選別精度を高めた、含水率を落としたり、リサイクル材料の質を上げることなどで代替製品の用途を広げたい。

あす金曜日は『販売・サービス』